基本的な文字化原則の中国語版（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）の中国語への応用について

宇佐美まゆみ・肖婷婷・戴琦・高娃・李宇霞・仇暁妮

0. はじめに

本稿は、人間心理と対人コミュニケーションのメカニズムを解明するための有用なデータとしての自然会話を研究するために考案された「基本的な文字化の原則 Basic Transcription System for Japanese: BTSJ、以下　BTSJ」（宇佐美 1997、2003）の中国語版（Basic Transcription System for Chinese: BTSC、以下 BTSC）を作成するプロセスの中間報告である。 BTSC は BTSJ と同じ観点で構成されたものである。ただし、中国語の特徴を考慮すべき点があるので、それらについて、現段階で検討したことをまとめた。

以下、まず BTSJ の概要を述べ、その次に中国語の特徴を簡単に紹介したうえで、第 1 節から BTSC 作成に向けてのたたき台としての一案である BTSC 試作版（第一版）を掲載する。

I．BTSJ の概要

宇佐美（1999）は対人コミュニケーション研究の方法論として、「自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ」を提唱している。「言語社会心理学」は、言語使用という相互作業を通して、人間関係のあり方やコミュニケーション・ダイナミックスを探ることを目的とするものである。BTSJ は、「自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ」に適するものとして開発された「基本的な文字化の原則」であり、汎用性を念頭において構築された文字化システムである。

BTSJ は主に、以下の点に注意して考案されている。

① 研究の視点を得るために、読みやすいものである。
② 定量的分析と定性的分析両方に適するものである。
③ よって、データベース化しやすく、記号などによって検索がしやすいものである。
④ コーディングが「発話文」単位である。
⑤ 対人関係に重要な役割を果たすと考えられる周辺言語情報は覚書として、なるべく多くを記しておく。（宇佐美 2003）

II．中国語の特徴

中国語の特徴として、表記と発音と語順の三つが挙げられる。以下、順に述べていく。

① 表記

中国語は簡体字と繁体字の 2 種類の表記がある。簡体字は「簡化字」ともいう。繁体字と比べると、画数が少なく、構造が簡単であるのが特徴である。現在主に中国大陸・シンガポール・マレーシアなどで広く使われている。一方繁体字というのは、簡略化をほとんど加えられていない漢字であり、使用範囲は主に台湾と香港である。

② 発音

中国語では、発音を表わす場合、ピンイン（pinyin）という発音記号を使う。1 つのピンインに 4 つの調子があり、これを「四声」という。四声のほかに、「軽声」というものもある。これは本来の声調を失った音で、軽く発音されたものである。

③ 語順

中国語の語順は日本語と違って、「主語+述語+目的語」の順になっている。日本語の「が、を」

などにあたる助詞がないため、語順によって主語、動詞、目的語などを見分ける。

上記の中国語独自の特徴を考慮に入れ、今回の協力作業では、以下のようなことを考えた。

① 表記に関して

謝（2000）では、データの共有化を考慮し、「簡体字」バージョンと「繁体字」バージョンの２種類を用意すべきだと述べている。しかし、その場合は、労力と時間がかかるという欠点がある。そのほか、「簡体字と繁体字の互換ツール」の使用も考えられるが、ただし、変換率が100%ではないため、変換不能の語彙をリストアップし、対照表を作成するという対処法を提案している。本稿は、今回中国大陸で広く使われている「簡体字」の表記を前提として、検討したものである。

② 発音に関して

中国語では、声調によって、意味が変わってくる。そのため、文字化資料を見ただけでは、意味やニュアンスの判断が難しくなることがある。たとえば、次の感嘆詞である「嗳」の例である。「嗳」は3声と４声という二通りの声調があり、声調によっては意味が変わる。

例１： ３声の場合

嗳，早知如此，我就不去了。

（いや、こんなこととわかっていたら、行かなかったよ。）

例２：４声の場合

嗳，早知如此，我就不去了。

（あ～あ、こんなことと分かっていたら、行かなかったのに。）

上記の例で分かるように、まったく同じ文でも、感嘆詞「嗳」の声調によっては、意味やニュアンスが違うものになる。声調を表す場合、中国語では、ピンイン（ローマ字）の上に違う形の棒線をふるという方法をとっているが、パソコンで入力する際のしやすさを考慮し、BTSC では、四声をアルファベットで表記する。たとえば、上記の例では、３声の場合は「嗳」の後ろに‘ai3’のような発音記号をつける。（詳細は「2.5 表記方法と記号について」の会話例 17 参照）

・ 嗳‘ai3’，早知如此，我就不去了。

③ 語順に関して

中国語と日本語とでは、語順が違うため、発話文の認定の際、倒置文の認定が問題になるのではないかと予想されていたが、実際に文字化してみた結果、倒置文の認定に関して、BTS のルールをそのまま適用できると分かった。（具体例は「2.発話文の認定の仕方」例９を参照）

また上記の三つの特徴以外、方言の問題がある。「中国語」は非常に多くの方言に分かれており、かつ方言差が甚だしく、お互いの意思疎通が不可能である場合も珍しくない。現在中国では北京方言を中心とする中国北部方言を基礎とした「普通話」と呼ばれる共通語が用いられている。一般に「中国語」と呼ばれるのはこの共通語で、中国各地にとどまらず、世界中の中国語話者にもっとも広く通じる言葉である。今回の協力作業で検討する BTSC は、上記の「普通話」を扱うことを前提とする。

現段階で調査した限りでは、文字化システムとして確立されたものはまだ見あたらないが、会話を文字化する際に使用した記号についての記述として提示されたものがある。たとえば、何・冉（2002）、李・範（2002）などである。しかし、発話分析の単位について触れていないため、定量的な分析には向いていない。

Ⅲ. BTSC の試作版における BTSJ の変更点及び追加点

本節では、BTSJ から BTSC へそのまま適用できる「発話文の認定の仕方」、「改行の原則」、「発話文番号とライン番号」に関しては BTSJ における記述を原文のまま転載しながら、日本語の会話例に相当すると考えられる中国語の例を差し替えている。適切な中国語の会話例がないものについては、日本語の会話例を原文のまま転載した。それ以外の「発話文終了に関する記号」、「記号凡例」、「入力書式」に関しては、中国語の表記で使われる記号や入力書式を採択し、一部変更する。また、「表記方式と記号について」は、使用文字、表記の原則、発音などのような中国語の特徴に関しては新しく追加した点がある。以下、BTSC で BTSJ からの追加・変更が必要な箇所について表１にまとめる。

表１： BTSC で BTSJ からの追加・変更が必要な箇所

BTSJ の構成	BTSC の試作版における BTSJ の変更点及び追加点
1. 発話文認定の仕方	BTSJ と同様
2. 改行の原則	BTSJ と同様
3. 発話文終了の記号	BTSJ の一部変更及び追加
4. 発話文番号とライン番号	BTSJ と同様
5. 表記方法と記号	BTSJ の一部変更及び追加
6. 記号凡例	BTSJ の一部変更及び追加
7. 入力書式	BTSJ の一部変更及び追加

以下は、BTSJ の観点に基づいた「基本的な文字化の原則の中国版」の作成に向け、中国語の特徴と考慮すべき点について検討したものを反映させた「基本的な文字化の原則中国語版(Basic Transcription System for Chinese: BTSC)の試作版（第１版）」である。

基本的な文字化の原則中国語版(Basic Transcription System for Chinese: BTSC)の試作版（第１版）

1. はじめに

本稿で提示する「基本的な文字化の原則の中国語版の試作版(BTSC)」は、「読みやすさ」を重視し、中国語表記の慣習に従って基本的に漢字を使い、必要に応じてピンイン(pinyin)かローマ字で表すという方法で表記する。句読点も、基本的に、慣例に従って適当と思われる位置にうつ（詳細は「6.1 表記方法の原則について」参照)。

自然会話の定量的分析に適するように考案されたBTSCでは、「発話文」を基本的な分析の単位とする。以下、発話文の認定の仕方、改行の原則、発話文終了に関する記号、「発話文番号」と「ライン番号」、表記方法と記号について順に述べる。さらに、BTSCによって文字化した資料を例示する。

2. 発話文の認定の仕方

BTSC では、「実際の会話の中で発話された文」という意味で「発話文」という用語を用い、基本的な分析の単位とし、「発話文」の定義を会話という相互作用の中における「文」とする。そして、以下のように認定する。基本的に、1人の話者による「文」を成していると捉えられるものを「1発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という２つの要素が重要になる。

たとえば、1 語の発話(例 1)、文末が省略された形で言い切られた発話(例 2)、話者が自分で発話の最後まで言い切らず言いよどんだ発話(例 3)や、第 1 話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第 2 話者の発話が始まり、結果的に第 1 話者の発話が終了した発話(例 4)などは、話者交替や間があった場合は、「1 発話文」として扱う。いわゆるあいづちや笑いも、話者交替や間などを考慮して「1 発話文」であるか否か判断する(例 5)。

また、構造的には「文」となっているが、独立した1発話文とはみなさない発話もある。例えば、1 つの発話文の前か後ろに加えて言う、話者の意見や主張などを表す“我觉得”、“我看呢”／「思うんだけど」などのフィラーは、先行部・後続部とまとめて「1発話文」とする(例 6)。直接引用を含む発話文も同様である(例 7)。さらに、同一話者による“就是就是”／「そうなんです、そうなんです」などのような繰り返しも、“就是”「そうなんです」のみで「文」になっているが、それらのあいだに間がなく、繰り返されたものがまとまったものとして捉えられる場合は、それらをまとめて1発話文とする(例 8)。また、“准备什么时候啊？，现在大概。”／「いつするつもりなの？、今のところ大体。」のような発話は、「いつするつもりなの」と「今のところ大体」のあいだに間がない場合は、まとめて1発話文とみなす。この発話は、結果的に倒置の形となっている(例 9)。1 つの「文」とみなしうるが、途中で相手の発話が入って話者が一旦交替したため改行され、複数のラインに渡っている発話も、同一話者によって発せられた「文」を成していると捉えられるものは、複数のラインにまたがる発話をまとめて「1発話文」とする(例 10、「3. 改行の原則」を参照のこと)。

以下の各例において、見出しの説明が指す発話文を「→」で示す。説明が、「→」で指した発話文の中の一部を指す場合には、さらに該当する部分に波線を引いて示す(例 6、7、11、12 など)。また、以下の会話例では、話者はアルファベットの「A」「B」で示す（話者を表す記号に関しては、「6.3 プライバシー保護」を参照のこと)。各例文には、BTSJ 独自の記号がついているところがあるが、その説明は「7. 記号凡例」を参照されたい。

例 1 <u>1 語の発話文</u>

1A　还有就是摄影师,摄像师(嗯),还有就是美容师(嗯)什么。
　　それにカメラマン、カメラマンとか(うん)、美容師(うん)とかも。

2B　全部就不要你自己操,<操办了>{<}。
　　全部自分でやらなくて、<やらなくていい>{<}。

3A　<哎-,>{>}哎。
　　<うーん、>{>}うん。

4B　它给你都<办好了>{<}。
　　みんなやって<くれる>{<}。

5A　<基本上,哎>{>}都弄好了。
　　<ほとんど、うん>{>}やってくれた。

→6B　一条龙。
　　お任せコース。

→7A　一条龙服务。
　　お任せコースサービス。

8B　嗯。
　　うん。

9A　就省心。
　　だから楽なんだ。

例 2 <u>文末が省略された形で言い切られた発話文</u>

→1A　她就是小时候画画啊,什么音乐方面一样也没有?。
　　彼女は小さいときから絵を描いて、音楽のほうは全然？。[↑]

2B　那就是,那个什么就是,她很小的時候就是給她去学了一会儿的小提琴,后来累死了,我自己就累死了,我想说算了,不高兴了。
　　それは、実は、結構小さいときにちょっとバイオリンを勉強させたんだけど、しばらく経ってから疲れちゃって、私自身が疲れちゃって、まあーいいやと思っちゃいました。

例 3 <u>話者が自分で発話の最後まで言い切らず言い淀んだ発話文</u>

→1A　「人名９」要去读这种･･･。
　　「人名 9」はなんとこんなような勉強を･･･。

2B　他喜欢呀。
　　彼は好きなのね。

3A　哎，他原来好像不是很偏那个理科的嘛。
　　んー、かれはもともと理系が好きだったんでしょ。

4B　他就想读外贸，因为他有一个阿姨在日本。
　　彼は貿易を勉強したかったんだ、日本におばさんがいるから。

5A　啊。
　　ああ。

例 4 <u>第 1 話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第 2 話者の発話が始まり、結果的に終了した発話文</u>(4B の発話により3A の発話が最後まで言い切れなかったことが8A の発話で分かる)

1A　他女儿多大啊?。
　　彼の娘さんはおいくつなの？。

2A　他女儿这么高嘞。
　　彼の娘さん高いよね。

→3A　他<女儿>{<}【【。
　　彼の<娘さん>{<}【【。

4B　】】<唉呀>{>}问题是年龄也就比你女儿大一岁吧。
　　】】<まあ>{>}それは年もお嬢さんより1個上でしょ。

5A　<好像高一年级对吧'[va]'?>{<}。
<学年は1年上のようでしょ?>{<}。
6B　<大一岁半>{>}。
<1個半上>{>}。
7B　他，那他女儿属马的=。
彼、彼の娘さんは馬年生まれなの=。
8A　=不是，他那个女儿即便这样的话，他，「人名2」他也不敢让她一个人乘车的呀。じゃなくて、それでも彼、彼女に一人で(列車に)乗らせるなんて心配でしょ。

例5　前後に間があり、1発話文とみなされるあいづちや笑い

1A　「人名10」她那个，她老公的那哥哥，她，她们家都加入日本国籍了哎。
「人名10」彼女のあの、彼女の旦那さんのお兄さん、彼女、ご家族みんな日本の国籍に入ったらしいね。
→2B　哦。
ああ。
3A　都在那里定居了。
もう向こうで定住したのよ。
4A　现在就本来这小姑娘是从上海带过去的，现在在那边又生了个男孩子。
今ねもともとこの女の子は上海から連れられて行ったんだけど、今向こうでまた男の子生んだらしい。
5B　哦，全部日本化了。
ああ、全部日本化したのね。
→6A　ははは<笑>。
哈哈哈<笑い>。
7A　她就觉得好像，最好呢是在日本赚钱，在上海用。
彼女はね、日本でお金を稼いで上海で使ったほうがいいと思っているみたい。

例6　構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの：フィラーの場合(以下の波線部)

1A　我呢，**后来就听那个音乐老师说,她说,那个大概说所有的乐器里面,说这个小提琴最难学。**
私ね、後になってあの音楽の先生から聞いたのよ、すべての楽器の中でバイオリンが一番難しいんだって。
2B　**好像是的。**
そうみたいだね。
3A　**因为什么,因为你的姿势不对吧,它弹下去的声音就不一样。**
なぜなら、姿勢が違うと出てくる音も違うから。
4B　**对,他们说是小,小提琴最难学。**
そう、バイ、バイオリンを覚えるのが一番難しいと言われます。
5A　**因为你说他那钢琴,他就算姿势不对,『当』它这个音#下去还不就是这个音啊。**
ピアノの場合は姿勢が違っても音は変わらないから。
→6B　**不过要学一样好像都挺难的喔,我发觉**(<笑>)。
でも何を学んでも難しいよね、そんな気がするんだけど。

例7　構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの：直接引用を含む発話文の場合(以下の波線部)

→1A　我呢，**后来就听那个音乐老师说,她说,那个大概说所有的乐器里面,说这个小提琴最难学。**
私ね、後になってあの音楽の先生から聞いたのよ、すべての楽器の中でバイオリンが一番難しいんだって。

例8　1発話文になりうる発話が間を入れずに繰り返されているために、それらをまとめて1発話文とみなすもの

1A　好好好，以后什么时候你有车了，我们再去看看你那边的房子啊。
じゃあ、、そのうち車をお持ちになったら、向こうのお宅を案内してくださいね。
→2B　好的好的<两人笑>。
いいですよ、いいですよ<2人で笑い>。

例9　発話が一息に続いているため、1発話文と認められ、結果的に倒置の形になっているもの

1A　那么你们蜜月到什么地方去渡啊?
じゃあハネムーンはどこに行くの?。
2B　还没想好。
まだ決めてない。
→3A　准备什么时候啊?，现在大概。
いつするつもりなの?、今のところ大体。
4B　这也没计划好（嗯）。
これもまだ計画してない（ああ）。

例10　話者が一旦交替しても、同一話者によって発せられた「1発話文」とみなすもの(1-1と1-2と1-3とで1つの発話文とみなす)

1-1A　**小孩学了,每天必须两个小时、、**
子供が学んだけど、毎日必ず2時間，，
2B　哎哟。
ええ～。
1-2A　**一两个小时要泡进去,就是说･･･、、**
1、2時間かからなくてはいけなくて、だから･･･„
3B　<烦死了>{<}。
<大変だね>{<}。
1-3A　**<一定>{>}要从小就开始学,越大了倒越没时间。**
<必ず>{>}小さいときから始まらないと、大きくなればなるほど時間が無くなっちゃうんですよ。

3. 改行の原則

基本的には、話者が交替するたびに改行する。しかし、話者が交替しなくとも、同一話者が複数の「発話文」を続けて発するときは、「発話文」ごとに改行する(例11)。また、相手の発話に重なる短い小声のあいづち(ふーん等)や笑いは、(　)に入れて、相手の発話の中の最も近いと思われる場所に挿入する(例12)。

例11　同一話者が複数の発話文を話す場合

→1A　她就觉得好像，最好呢是在日本赚钱，在上海用。
彼女はね、日本でお金を稼いで上海で使ったほうがいいと思っているみたい。
→2A　不过日本的消费她觉得蛮高的，她还要再自己打工，那小孩小嘛，她觉得好像带在身边也不方便。
でも日本の消費が結構高いと彼女が思っているようで、自分でもアルバイトをしなきゃいけないし、子供の面倒を見るのも大変だって。
→3A　她那个老公，是日本人，不过那个老公挺听她的，钱都交给她。

彼女の旦那さんはね、日本人でね、彼女の言うこと結構聞いてくれて、お金も全部渡してくれる。

→4A　那她就给我说，那个夫人跟我说，就这样的人在日本挺少的，不太有的。

彼女は言ってたね、あの奥さんは私に言ったんだけどね、こういうの日本であまりなくて、珍しいって。

例 12　改行しないあいづちや笑い(以下の波線部)

1A　就是吃一顿。

食事するだけ。

→2A　然后(对) 没有了，吃一顿没有了 (嗯嗯)。

それから (そう) 何もなくて、食事したらもう終わり (うんうん)。

3B　还放烟火那么，两家一起放还是，不管的咯？。

花火もあげるけど、両方の家族で一緒に上げるの、それとも関係ないの？。

4A　这个不管的咯。

それはかまわないね。

5B　哦。

ああー。

→6A　你吃完了你就可以放了 (嗯)。

どっちかが食べ終わったら先にあげていいよ (うん)。

→7B　比，比较空旷的对伐[va]'? <两人笑>，对伐[va]'？。

け、結構広広かな？<2 人で笑い>、でしょ？。

4. 発話文終了に関する記号

1発話文が発せられている途中に相手の発話が入った場合、話者交替の改行原則により、改行されることになる。このように、1発話文が 1 ラインで終わらず、複数のラインにわたる場合がある。そこで、各ラインの末尾に、発話文が終了しているか否を区別する記号をつける。以下に、順に説明する。

4.1 発話文終了の記号

1発話文が終了したところには、その最後に必ず句点「。」をつける。その発話文が叙述なら句点「。」のみをつける。質問、確認等なら、「?」とそれに続けて句点「。」をつけ、「?。」という形にする。なお、疑問の終助詞(「か」等)がなくとも、イントネーションや文脈により、明らかに質問、確認等をしていると判断できるものには、「?。」をつける(「お名前は?。」等。) 「?」の後に、「。」をつけるのは、「。」の数が発話文の数を表すようにするためである)。

また、1 発話文として認定された笑いは、その音声を記し、「〈笑い〉」の後に句点「。」をつけ、1発話文であることが分かるようにしておく(例 13)。

なお、発話文末が言い淀んでいると判断される場合は、「…」とそれに続けて句点「。」をつけ、「…。」という形にする(例 14)。

例13　笑いのみの発話文

1B　哦，全部日本化了。

ああ、全部日本化したのね。

→2A　ははは<笑>。

哈哈哈<笑い>。

3A　她就觉得好像，最好呢是在日本赚钱，在上海用。

彼女はね、日本でお金を稼いで上海で使ったほうがいいと思っているみたい。

例14　言い淀み:発話文末

A　那个的话，有点儿…。

それは、ちょっと…。

また、会話の中では、第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した形になる場合がある。このような場合は、第1話者の発話が非意図的に終了し、発話文として終わったことを表す記号「【【　】】」(全角)をつける。結果的に終了させられた第1話者の発話文の終わりには、「。」の前に、第2話者の発話が挿入されたことによって結果的に発話が終了したことを示す記号「【【」をつけ、第2話者の発話文の冒頭には、その発話が第1話者の発話途中に挿入され、第1話者の発話を終了させたことを表す記号「】】」をつける。

第1話者の発話文が完結する前に、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合[1]

例 15 →　1　A　それは、高校、でも<あの…>{<}【【。

→　2-1　B　】】<現代国語っていうと、>{>}あの、国語の…。

3　A　はい。

2-2　B　その、あっち、<だけですか?>{<}。

4.2 1発話文が複数のラインにわたる場合

1発話文の途中に相手の発話が入った場合には、その途中の句末に「、、」をつけ、その発話文が終わっていないことをマークし、改行して相手の発話を記入する。その相手の発話の後に、改行して後に続く発話を記入し、発話文が終了したところに「。」か「?。」か「…。」をつける(5.1「発話文番号」、表 1 を参照)。

複数のラインにわたって記入された1発話文には、その複数のラインすべてに同じ発話文番号をつけ、ラインが変わっていても、それらの発話が「1発話文」を成していることが分かるようにしておく(「5.1 発話文番号」参照)。

つまり、1ラインの終わりには、必ず、句点(「。」、「?。」、「…。」の3パターン)か、「、、」のどちらかの記号がつくことになる。

5. 「発話文番号」と「ライン番号」

BTSC において、「発話文数」と「ライン数」は、会話に関する情報を異なった視点から捉えている。それぞれの視点に応じた分析ができるように、各ラインには、「発話文番号」と「ライン番号」という 2 通りの番号をつける(表 1 参照)。

5.1. 「発話文番号」

「発話文」の数が分かるように、1 つの発話文につき 1 つの番号を割り当てる。ただし、1 発話文の途中に話者交替があって改行された場合には、1発話文が数ラインにわたって記されることになる。その際、その複数ラインにわたっている発話が一続きの1つの発話文であることを示すために、該当する一連のラインに同じ発話文番号をつける。さらに、その1発話文内における各ラインの順番が分かるように、その中で通し番号(たとえば表 1 の発話文番号 158-1、158—2)をつける。

また、句点「。」とは別に、発話文が終了していることを示す「*」を、「発話文終了セル」に記入する。つまり、発話文番号と「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、発話文の終了を二重に確認し、漏れや重なりを防ぐようにする。

5.2 「ライン番号」

BTSC では、発話文番号とは別にライン番号を設ける。ライン番号には、1ラインにつき1つの番号が割り当てられ、番号の若い発話が必ず先に発せられていることを示す。発話文番号においては、上述したように、トランスクリプトの中で番号の順序が入れ替わることがある(たとえば表1の発話文番号セルにおいて、157 の後に 158-1 が、159 の後に 158-2 がきている)が、ライン番号は、発話された順序を表すことができる。

[1]適切な中国語の会話例がなかったため、日本語の会話例を原文のまま転載した。

表 2.「ライン番号」と「発話文番号」の1例

行编号	句子编号	句子结束	说话人	话语内容
163	156	*	CBF02	那么晚上有什么交通工具？。 (ところで、夜はどんな交通手段があるんですか?。)
164	157	*	CYF03	有深州线。 (深州線があります)
165	158-1	/	CBF02	从下午４点开始到<晚上>{<}„ (午後の４時から夜まで„)
166	159	*	CYF03	<几点？>{>}。 (何時？。)
167	158-2	*	CBF02	第二天凌晨都有的。 (次の日の朝もありますよ。)
168	160	*	CYF03	这个是晚上的车啊。 (これは夜行車ですか?。)
169	161	*	YM01	哎。 (はい。)

6 表記方法と記号について

ここでは、BTSC における表記方法の原則と、BTSC で独自に用いる記号が意味するところについて提示する。まず、表記方法について説明し、次に、直接引用部、音声的情報、周辺言語情報、プライバシー保護といった、発話にかかわる様々な情報を記号化する方法を提示する。

6.1 表記方法の原則について

BTSC における表記は、読みやすさを考慮し、基本的には、漢字(簡体字)表記とする[2]。しかし、会話の音声的情報をできる限り正確に記述するため、音が脱落したり、通常の発音からの逸脱が大きかったりするものは、pinyin 表記にする。中国語の４声調は pinyin 表記の後ろに１から４までつけるように表記する。例えば、１声の「妈」を「ma1」と表記する。そのほか、本来の声調を失って、軽く発音される軽声もあるが、これを「0」で表記する。また、強調されて発音がなされた場合は、強調された言葉の下に下線をつける(例 16)。

例 16 <u>強調されて発音がされた場合</u>

A 我<u>昨天</u>没去。

(私<u>昨日</u>は行かなかった)

また、読み方が複数ある言葉(例 17)は、漢字で記した後、その読み方を pinyin で「‘ ’」に入れて示す。

例 17 <u>読み方が複数ある言葉</u>

例 17-1 A 以前有个叫张行‘xing2’的歌手，对吧?

(昔「張行」っていう名前の歌手がましたね。)

例 17-2 A 你是说张行‘hang2’吗？。

(「張行」のことですか。)

[2]より日常的に自然に用いられている表記法にしたほうが読みやすく、合理性を図ることができる。

視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるものには、本や映画の題名(例 18)のような固有名詞は《》で括り、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明した部分等(例 19)があるが、それらは、『 』でくくる。

例 18 A 你有没有看过电影《秦俑》？。

(あなたは『秦俑』っていう映画を見たことがあります？)

例 19 A 是秦国的『秦』。

(チン国のチンです)

数字の含まれる言葉の表記は、実質的に数量・順序を表す言葉に関しては、算用数字を用い、漢字熟語の構成要素として用いる場合や概数を示す場合には、漢数字を用いることを基本とする。

また、読点は、基本的に慣例に従って打つが、慣例にそぐわなくとも、「間」がある場合には打つ(例 20)。1発話文とみなされるものが倒置の形になっている場合は、発話文中に読点「，」を、発話文末に句点「。」を打つ(例 21)。倒置疑問の場合は、発話文中に「?，」と記入する(例 22)。

例 20 <u>間があると認められる場合の読点</u>

A 班主任，是谁啊?。

(担任先生、は誰ですか？)

例 21 <u>1 発話文とみなされるものが倒置となっている場合</u>

A 当然要去，明天。

(もちろん行きますよ、あしたは)

例 22 <u>1 発話文とみなされるものが倒置疑問となっている場合</u>

A 去吗?，明天。

(行きます?、あした)

また、後に説明する BTSC で用いる記号は、但し書きのあるもの以外は、すべて半角で記入することを原則とする。

6.2 記号について

発話された音声やそれに関する情報を文字化資料として記述するには、それらの情報を表すための記号を用いることが必要である。そこで次に、直接引用部、音声的情報、周辺言語情報、プライバシー保護といった、発話に関するさまざまな情報を記述する際に必要な記号を提示していく。さらに、発話内容を何らかの観点からコーディングする場合に便利な記号の提示も行う。尚、BTSC で用いる記号は、但し書きのあるもの以外は、すべて半角で記入することを原則とする。

BTSCでは、中国語の慣習にしたがって、BTSJの記号に一部変更や、追加を加えたものがある。変更を加えた記号は、「，」と「、」と「‘ ’」の3つであり、追加した記号は「:」と「《 》」の2つである。(詳細は「7. 記号凡例」参照)。

6.2.1 直接引用部

引用とはある発話・思考の場で成立した(あるいは成立するであろう)発話・思考を新たな発話・思考の場に取り込む行為である(鎌田、2000:17)。BTSCでは、間接引用に対し、ある場面において発せられた話者自身や話者以外の者の思考・判断・知覚などの内容を、現在の発話の場面において、その時発せられたかのように発話している部分を、直接引用部と定義し、その部分を"" でくくることにする。

その発話が直接引用されたものかどうかは、声の調子や言葉遣いの変化などから判断する。実際の会話では、たとえば「她跟我说，说那我想转到文科班」(彼女は私に文科に移りたいと言ったんですけど)という発話文において、話者が、下線部を、声の調子を変え、発話している場合には、下線部を直接引用

部と認定し、その部分を" " でくくり、「她跟我说，说″ 那我想转到文科班″ 。」(彼女は私に"文科に移りたい"といったんですけど)と記述する。

例 23 話者自身の思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合
A "うんーなんだこりゃー"って感じ[3]。

例 24 話者以外の者の思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合
A って言ったら、"あー、講堂の、あの「講堂名」なんとかっていう有名な所でしょ"って
言われて…。

6.2.2 音声的情報

BTSC では、発話の文脈や状況をできるだけ正確に伝えるための基本的情報として、イントネーション、ポーズや沈黙、ラッチング、言いよどみ、発話の重複、聞き取り不能な音などを記述する。そのために、BTS 独自の記号を用いる。以下、順に説明する。

① イントネーション

イントネーションは、特記する必要があると判断したものを、[¤][¤][¤]で表す(例 25)。また、確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」には、「??」をつける(例 26)。

例 25 特記する必要のあるイントネーション
A じゃあもう、それだけがお仕事?。[→]

例 26 半疑問文
A いえ、わたし、あの一大塚??、なんです。

② 間、沈黙

話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際は、/少し間/と記すが、原則として、1秒以上の「間」は、沈黙としてその秒数を「/沈黙 1.5 秒(秒数)/」のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかが分かりやすいように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。

例 27 2 人の発話の間に、沈黙が 5 秒あった場合
1A あのー、2ヶ月に1回です。
→2B /沈黙 5 秒/ふうん。

③ ラッチング

改行される発話と発話の間が、当該の会話の平均的な間の長さより相対的に短いか、間がまったくないことをラッチングとして、「=」という記号を用いて表す。これは、2 つの発話(文)として、改行されていても、それら2つが音声的にほとんど間がなくつながって発話されたことを示すためである。改行されている2つの発話のラッチングは、同一話者のものにも、そうでない場合にも適用される。ラッチングは、最初のラインの終わりに「=」をつけ、続くラインの冒頭にも「=」をつける[4]ことによって表す。

例 28 →1A だってしょうがないでしょう=。
→2A =本人がそう言ったの。

④ 言い淀み

発話文中、文末に関係なく、音声的に言い淀んだように聞こえるものには「…」をつける。もし言い淀みが発話文中にあれば、「…」に読点をつけ「…、」という形にし、その後の語句を続けて記入する。

---

3 以下、中国語の適切な会話例がなかったため、日本語の会話例を原文のまま転載した。

4 表計算ソフトでは「＝」が数式と判断される。それを避け文字として認識させるため、「＝」の前に「'」(アポストロフィー)をつけるなどの処置をする。こうすると、紙面上には「＝」だけが表れる。

音声的に言い淀んだように聞こえるものがあった場合
例 29 A 目白ですと、バス…、ですか?。
例 30 A それはまた学校で充電しといて、また帰りは、って…。

⑤ 発話の重複

同時発話されたところは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{>}をつける。

例 31 2 人の発話が一部重なった場合
→1A それは、それは、<ごくろうさまです>{<}。
→2B <いえいえ>{>}。

⑥ 聞き取り不能

聞き取り不能であった部分に、その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。

例32 →A わたしなんか、#####全くないもんね。

6.2.3 周辺言語情報

笑いや、相手の発話に重なる短いあいづちなどの周辺言語情報については、以下のように記す。また、「文脈情報」は、分析者の覚書きとして、分析者が必要だと判断した情報を、分析者自身が分かりやすい書き方で、記しておく。

① 相手の発話に重なる、短いあいづち

相手の発話に重なる、短く、特別な意味を持たないあいづちは、相手の発話中の最も近い部分に、( )にくくって入れる。

例33 A わたしは、あの、小学部中学部にいたん(ふうん)ですけれども。

② 笑い

笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑いが比較的はっきりと聞こえる場合は、〈ははははは〉などのように記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文とするが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に笑いに関する情報を記し、その後に句点をつける。

例34 A 初めて聞いた、面白かった。〈笑いながら〉。
例 35 A 資源効率的に使おうと思えば、〈笑いながら〉それしかないわけですから。

③ 文脈情報

その発話がなされた状況ができるだけ分かりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを、研究者が分析の際のメモとして活用できるよう記しておく。

例36 [ささやくように]、[息を吸い込みながら]、[大きい声で↑]、[飲み物を飲む音]等。
例37 A こたつから根生やしてんじゃないか<笑いながら>って父親と弟は
一切動かない。[不満を打ち明ける感じで]

また、文字化資料を読むだけではわかりにくい発話について、説明を記す。

例 38 B 制度わかる?。[留学先の日本語クラスのレベル分けを知っているかと尋ねている]

6.2.4 プライバシー保護

会話の内容は協力者のプライバシーに関わるため、BTSCでは、会話の内容をそのまま文字化したトランスクリプトと、公開用のトランスクリプトと、2通りのトランスクリプトを用意する。公開用トランスクリプトでは、協力者のプライバシーに関わる固有名詞などを明記しないようにする。例えば、初対面の会話においては、話者の名前の説明が行われたり、それにまつわるエピソードが話題になったりすることがあるが、そのような場合の、プライバシー保護を考慮した表記の例を以下に示す。また、その他の固有名詞(「企業名」「大学名」「地名」など)についても、会話の流れから協力者が特定できる場合には、話者の名前と同様に明記しないように処理する。

① BTSCでは、公開用のトランスクリプトにおいて、話者は、アルファベットなどに記号化して示すことを

原則とする。その際に、話者の属性を表す記号を用いると話者同士の関係がすぐわかり、便利である。例えば、ある男性話者の言語行動が異性の対話相手の年齢に応じてどのように変化するかを分析する際、その男性の話者を、BM(Base Male)とし、対話相手となる年上の女性をOF(Older Female)、同年の女性をSF(Same-age Female)、年下の女性をYF(Younger Female) などと記号化する。また、日本語と中国語の対照研究をする場合は、日本語母語話者をJ(Japanese)、中国語母語話者をC(Chinese)としたり、母語話者と学習者の会話を研究対象とする場合は、母語話者をNS(Native Speaker)、学習者をNNS(Non-Native Speaker)としたりするなど、任意の記号を用いて表す。目的に応じては、「A」「B」といったアルファベットを用いても、「張」「王」などの仮名を用いて表してもよい。

② 名乗り方に応じて、「BM03姓」「BM03名」「BM03フルネーム」というように記す (例39)。

③ 姓や名に使われる漢字が2つ以上出てくる場合は、「漢字1」「漢字2」のように記す(例40)。

④ 自分の名前に使われている漢字の説明のために、具体的な熟語などを用いた場合、それを明記しないように、「漢字1を含む言葉」などと記す(例41)。

⑤ 固有名詞を発音している際、その一部が相手の発話に重複している場合には、アルファベットの「N(Name)」を用いてその拍数を示し、どの部分が重複しているか明確にし、その後に伏せられた固有名詞が何のことであるか分かるようにしておく(例42)。

⑥ 会話に、名前の読み方に関するエピソードが含まれており、名前の読み方が複数出てくる場合は、「姓1」「姓2」というように記す (例43)。

⑦ 「会社名」や「大学名」などの組織の名称、話者の出身県を含む「地名」等の記述に関して、話者のプライバシーに関わる場合は、「地名1」のように伏せて記す。(例44)。

● 話者の名前が話題になっている場合

王良さん：王→「漢字1」、良→「漢字2」

例39 名乗り方に応じた記し方

＜音声に忠実に文字化したトランスクリプト＞

例39-1 OF01 /沈黙6秒/王と言います。

＜公開用トランスクリプト＞

例39-2 OF01 /沈黙6秒/[OF01姓]と言います。

例40 姓や名に使われている漢字が2つ以上出てくる場合

＜音声に忠実に文字化したトランスクリプト＞

例 40-1 BM02 王は普通の。
OF01 良は優良の良です。
BM02 優良の良です。

＜公開用トランスクリプト＞

例 40-2 BM02 「漢字1」は普通の。
OF01 「漢字2を含む単語」中の「漢字2」です。
BM02 「漢字2を含む単語」中の「漢字2」で。

例41 自分の名前に使われている漢字の説明

＜音声に忠実に文字化したトランスクリプト＞

例41-1 OF01 山は、あの、富士山の山です。

＜公開用トランスクリプト＞

例41-2 OF01 「漢字1」は、あの、「漢字1を含む言葉」の「漢字1」です。

例42 固有名詞の一部が相手の発話に重複している場合

＜音声に忠実に文字化したトランスクリプト＞

例42-1 BM02 オウ〈リョウ〉|〈|,,
OF01 〈オウ〉|〉|リョウ。

BM02 オウリョウさん。

＜公開用トランスクリプト＞

例42-1 BM02 [OF01姓] 〈さ〉|〈|,,
OF01 〈N〉|〉|NNN。[OF01 姓を1拍ずつ発音する]
BM02 [OF01姓]さん。

[長行さん(仮名)]

例43 名前の読み方が複数出てくる場合(以下の波線)

＜音声に忠実に文字化したトランスクリプト＞

例43－1 BM03 听说你们班有个叫张乐（le4）的吧。
（あなたのクラスに張楽さんっていう人がいるでしょう。）
YM01 啊，你是说张乐（yue4）吗？。
（あ、張樂さんのことですか。）

＜公開用トランスクリプト＞

例43－2 BM03 听说你们班有个叫(名字1)的吧。
（あなたのクラス「名前1」さんっていう人がいるでしょう。）
YM01 啊，你是说（名字2）吗？。
（あ、「名前2」さんのことですか。）

●名前以外に、会話の流れから協力者が特定できる可能性のある固有名詞の場合

例44 BM01 ウ冠に「漢字6」・・・、あれ、昔「企業名」があった<ところ?>{<}。
SF01 <そうそう>{>}です、「地名1」です[BM01が息を吸う音]、うん。
BM01 はあ、はい、へえ。

6.2.5 記入しないセルにつける記号

発話文終了や、コーディングにおいてコードを記入しない場合には、記載漏れとの混同をさけるため半角の「/」(スラッシュ)を入れる。5.1で示したように、発話文終了記号を記入しない場合には、セルに「/」を記入する。また、コーディングを行わないラインにも用いる。例えば、スピーチレベルのように発話文ごとにコーディングを行う場合、発話文が終わっていないライン、すなわち末尾に「,,」があるラインは、コーディング対象とならないため空欄になる。このように、部分的に空欄があると、コーディングをし忘れた欄であるかのような誤解を生んだり、コーディングを行うべきラインがずれるというミスを誘発したりする。それを防ぐために、コーディングを行わないラインについては、「/」を入れることにする。

表3. コーディングを行わないラインのセルに半角/（スラッシュ）を入れた場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	発話文全体POL	発話文末POL
25	24	*	A	電車の混みもそんなに・・・?。	NM	NM
26	25	*	B	そう・・・<です>{>}。	P	P
27	26-1	/	A	<いや、>{>}今日から、夏休みじゃないですか,,	/	/
28	27	*	B	あー、<そうですねー>{<}。	P	P
29	26-2	*	A	<子供たちは>{>}。	P	P
30	28	*	A	ですから(うーん)、混んでるのかなと思ってたんですけどね。	P	P

7 記号凡例

これまでに提示してきたBTSCで用いられる記号を以下にまとめる。はじめに、BTSCに基づいて文字化する際の基本的な記号を挙げる。

尚、以下の記号は、「検索」などの際に漏れがないよう、但し書きのあるもの以外は、「半角」で統一することを原則とする。

発話文終了に関する記号

*	発話文が終了するごとに、「*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、発話文番号と発話内容中の句点「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
/	発話文終了や、コーディングにおいてコードを記入しない場合には、記載漏れとの混同をさけるため、「/」を記入する。

発話内容の記述に関する記号

。	［全角］1発話文の終わりにつける。
〃	発話文の途中に相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。
,	①［全角］ 1発話文および1ライン中で、中国語表記の慣例の通りに読点つける。 ②発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
‘ ’	①複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方をピンインで‘ ’に入れて示す。 ②通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に、ピンインで正式な表記をする。
、	文の中での一番小さなポーズを表す時に用いる。通常、並列を表す語彙、連語の間に使われる。例:我们班有学英语、德语、西班牙语等等。
:	引用された発話の前につける。例えば：“小王説：”
……	① 省略文の後ろにつける。 ② 発話が切れたり続いたりする時につける。 ③ 発話が中断する場合使う。
《 》	書籍、文章、新聞、雑誌、劇作、歌曲などの題目は《》でくくる。
" "	発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を"" でくくる。
?	疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?、」をつける。
??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
[↑][→][↓]	イントネーションは、特記する必要のあるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いる。
/少し間/	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
/沈黙 秒数/	1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
= =	改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「〃」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける。
…	文中、文末に関係なく、音声的に言いよどんだように聞こえるものにつける。
< >{<} < >{>}	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「〃」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{>}をつける。
【【 】】	［全角］第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【【 】】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【【 をつけ、第2話者の発話文の冒頭には 】】をつける。
[ ]	文脈的情報。その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどをそのラインの一番最後に記しておく。
( )	短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、( )にくくって入れる。
< >	笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に記し、その後に句点「。」または英語式コンマ2つ「〃」をつける。
(< >)	相手の発話の途中に、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(<笑い>)とする。
#	聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
「 」	トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護ために明記できない単語を表すときに用いる。

8 入力書式

トランスクリプトの共有のため、また、複数の研究者が処理を行う際の効率化のため、入力書式を統一しておくことを勧める。基本的には、中国語の一般的な表記の原則に基づいて、漢字および付属記号(読点「,」句点「。」)は全角で入力する。しかし、英数字および記号の表記は半角とする。トランスクリプトの保存にあたっての詳細な形式は、以下の通りに統一する。

8.1 保存形式

基本的に、1つのトランスクリプトを1つのシートに保存する。その際、共有された複数のトランスクリプトから個別のものを区別・認識するために、各トランスクリプトには話者の記号、作成者の氏名、日付(年・月・日； 00年00月00日)を記して保存する。

例45　CBF03-CSF02　张三　070315

(BF01とSM03は話者を示すための記号の1例である：以下同様)

ただし、作業途中のトランスクリプトについて、1会話に複数の作業者がいる場合や1人の研究者が複数のトランスクリプトを処理している場合は、会話別に文字化の作業順番・作成者の氏名を明記し、異なる保存名で残す。

例 46　CBF03-CSF02　(1 次)　张三　070315
　　CBF03-CSF02　(2 次)　李四　070330

8.2　書式の設定

ブックの中のシートの書式は以下のように統一する。

1) シートのヘッダー：シートの上部、中央に話者記号を記す。さらに、文字化した部分の開始からと終了までの時間を正確に測り、(　)の中に記入する。そして、会話が最後まで文字化された場合は「終」と記し、続きがある場合には「続」と記す。

例 47　CBF03-CSF02(0'00"-3'20":　続)

(CBF03 と CSF02 の会話を最初から 3 分 20 秒まで文字化したが、その後に文字化されていない部分が残っていることを表す。)

また、会話の情報(会話を収集した目的、全何会話のうちの何会話目か、話者の属性、話者の記号の意味等)を書く。

2) シートのフッター：シートの右下には、このシートに関する文字化の作業情報を、作業次数、作業者の氏名、作業を終えた日付の順に記しておく。文字化作業が複数回、または複数の作業者によって行われた場合は、前に行われた文字化作業情報の後に最新の情報を付けたし明記する。

例 48　1 次：　張三(070315)、2 次：李四(070330)、3 次：王五(070424)

3) シートの余白:原則として、上は 3 センチ、下は 2 センチ、左右は 2 センチに設定する。

4) フォント：「simsun」、サイズは 10 を採用する。或いは、フォント：「宋体」、サイズは 5 号を採用する。

5) セルの基本項目：「ライン番号」「発話文番号」「発話文終了」「話者」「発話内容」の 5 つを設ける。「ライン番号」「発話文番号」「発話文終了」項目は上述した説明にしたがって記入する。「話者」項目には、各々の話者名を記号化し、記入する。「発話内容」項目には、録音された会話を文字化したものを記入する。

6) セルの幅: 原則として「発話内容」項目のみ 55、他の項目はすべて 5 に統一する。また、「書式設定」で「折り返し表記する」を選択し、幅を調整する。

7) 色分け：どの話者による発話であるかが分かりやすいように、各ラインを、話者ごとに色分けする。

以下、図 1 に全体の書式、表 3 にトランスクリプト例を示す。

职业女性初次见面时的杂谈（1-72）　CBF03-CSF02(3'11"-5'17"：続)　CBF:中国人女性 base
会话编号：5　CSF:年龄较小的女性
参与会话人数：2 人

上の余白：3cm

左：2 cm

行编号	句子编号	句子结束	说话人	话语内容
63	60	*	CBF03	她就是,她们老师上次跟我说了,她们老师上次看到我也跟我说,说她们班级上次搞那个模特儿时装表演(嗯嗯嗯),在班级里高,说,怎么样,就叫他们小朋友自己上去了。
64	61	*	CSF02	嗯。
65	62	*	CBF03	就,后来说她表演得很好的,说她蛮有表演才能,说叫我什么什么地方去,培养培养。

右：2 cm

下の余白：2cm

1 次：张三(070315)
2 次：李四(070330)
3 次：王五(070424)

図 1.　全体の書式

表 4: トランスクリプトの例

行编号	句子编号	句子结束	说话人	话语内容
1	1	*	CBF03	啊,「CSF02 姓」老师(<两人笑>),那你小孩多大啦?。
2	2	*	CSF02	我小孩今年上初三。
3	3	*	CBF03	上初三啊,读什么学校啊?。
4	4	*	CSF02	就在「中学名 1」中学。
5	5	*	CBF03	「中学名 1」中学是吧?。
6	6	*	CSF02	嗯。
7	7	*	CBF03	嗯。
8	8	*	CSF02	还可以吧?。
9	9	*	CBF03	可以啊。
10	10	*	CSF02	嗯嗯。
11	11	*	CBF03	她做什么的吧?。
12	12	*	CSF02	什么做什么的?。
13	13	*	CBF03	做,她做什么干部啊?。
14	14	*	CSF02	她就是宣传委員嘛,她因为画画儿画得还可以。
15	15	*	CBF03	是吗?(<笑>)。
16	16	*	CBF03	那你现在,那你小孩送她那儿去画过画没有啊?。

17	17	*	CSF02	以前画过吧,后来现在也没空了,也,也就不去了。
18	18	*	CBF03	没空啊?。
19	19	*	CBF03	那她画到几年級啊?。
20	20	*	CSF02	她大概是小,小時候就开始画了吧,断断续续也没有个准,后来到了大概是初一还初二,就就就,就不画了。
21	21	*	CBF03	哎呀,像我女儿什么不做的。
22	22	*	CSF02	那你没空送,呃,那个星期六星期天都不出门的啊?。
23	23	*	CBF03	那你看我现在礼拜六吧,上课(呃呃),高三上课,礼拜天嘛,累死了,####,她呢,倒是挺要去做的。
24	24	*	CSF02	她就是小時候画画啊,什么音乐方面一样也没有?。
25	25	*	CBF03	那就是,那个什么就是,她很小的時候就是給她去学了一会儿的小提琴,后来累死了,我自己就累死了,我想说算了,不高兴了。
26	26	*	CSF02	「人物1」她那个女儿不是学那个钢琴吗?她不是学了很长时间啊?。
27	27	*	CSF02	她現在还在学啊?。
28	28	*	CBF03	她現在已经学到钢琴六级了。
29	29	*	CSF02	喔,那她每天要花很多时间。
30	30	*	CBF03	她,她,就是从4,5歲的时候开始学的呀。
31	31	*	CBF03	我呢,后来就听那个音乐老师说,她说,那个大概说所有的乐器里面,说这个小提琴最难学。
32	32	*	CSF02	好像是的。
33	33	*	CBF03	因为什么,因为你的姿势不对吧,它弹下去的声音就不一样。
34	34	*	CSF02	对,他们说是小,小提琴最难学。
35	35	*	CBF03	因为你说他那钢琴,他就算姿势不对,「当」它这个音#下去还不就是这个音啊。
36	36	*	CSF02	不过要学一样好像都挺难的喔,我发觉(<笑>)。
37	37	*	CBF03	钢琴的话,像我们老師。
38	38-1	/	CSF02	小孩学了,每天必須两个小时,,
39	39	*	CBF03	哎哟。
40	38-2	/	CSF02	一两个小時要泡进去,就是說,,
41	40	*	CBF03	<烦死了>{<}。
42	38-3	*	CSF02	<一定>{>}要从小就开始学,越大了倒越没时间。
43	41	*	CBF03	<哎呀>{<}。

9 終わりに

今回 BTSC の試作版への協力作業を通して、発話文の認定に関して、BTSJ が適用できることが分かった。BTSC を用いることによって、中国語の会話分析における文単位の文の要素についての研究がしやすくなると考えられる。

また中国語のアクセントである四声は声調によって、意味が変わってしまうため、日本語より重要であるといえる。そのため、今後文字化作業をしながら、音声的情報をより正確に記述するための新しいルールを考えていきたい。

付記

本稿をまとめるにあたって、以下の先生方から貴重なコメントを頂きました。心より感謝申し上げます。

・三宅　登之　　教授（東京外国語大学）
・趙　華敏　　教授（北京大学）
・曹　大峰　　教授（北京外国語大学）

引用文献

宇佐美まゆみ（1997）「基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）の開発について」『日本人の談話行動のスクリプト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』、文部省科学研究費一般研究（C）(課題番号07680312)（研究代表者：西郡仁朗）研究成果報告書、12-26.

＿＿＿＿＿（1999）「談話の定量的分析－言語社会心理学的アプローチ－」『日本語学』18(12)、明治書院:40-56.

＿＿＿＿＿(2003)「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」『多文化共生社 会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』、平成13-14年度　科学研究費補助金　基盤研究C (2) (課題番号: 13680351) (研究代表者: 宇佐美まゆみ)、研究成果報告書、4-21.

謝オン　(2002)「中国語版（Basic Transcription System for Chinese: BTSC）作成への協力作業過程と、そこで考えたこと」『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』平成13－14年度（科学研究費補助金　基盤研究C（2）研究代表者：宇佐美まゆみ）研究成果報告書、24－25

何自然・冉永平（2002）『语用学概论』 湖南教育出版社

李悦娥・ 范宏雅（2002）『话语分析』 上海外语教育出版社

鎌田修（2000）『日本語の引用』ひつじ書房